

令和元年度公開講座「すこやかに生きる」

最先端がん医療－がん検診で早期発見、最新治療で克服－

がんは日本人の死因の第1位で、身近な病気です。かつて、不治の病と言われたがんも、国の重点課題として、がん基本法やがん登録制度などの様々な施策、そして、昨年、ノーベル賞を受賞された本庶佑先生のがん免疫療法などのめざましい研究成果により、いまや、がんは治る病気となり、多くのがん患者が社会復帰をしています。一方で、がん検診や適切な医療を受けないと怖い病気であることに変わりはありません。

令和元年の山梨大学公開講座「すこやかに生きる」では、がんを取り上げ、最先端のがん医療について、本学の誇るがん医療の専門家がわかりやすく解説して、がんに打ち勝つ方法を伝授いたします。

主催・山梨大学医学部

共催・山梨医学会

開催日時	令和元年10月14日(月・祝) 13:30~16:25
会場	山梨大学医学部キャンパス(中央市) 臨床講義棟大講義室
対象者	一般市民
演題と講師	「がん検診をお受けください～長寿社会の必須検診～」 30分 社会医学講座 准教授 横道 洋司
講演内容	日本人男性の平均寿命は81歳、女性は87歳になりました。この30年間、高齢化の影響を除いて考えても、がんの罹患は男女とも増えています。しかしがんにより亡くなる人は減っています。検診、治療は大きく進歩しました。検診で早くがんを発見し、早く治療に入って頂くことの重要性をこの講演でお伝えできましたら幸いです。
演題と講師	「新時代のがん医療：ゲノム検査と免疫療法」 40分 血液・腫瘍内科学講座 教授 桐戸 敬太
講演内容	ゲノム検査と免疫治療の進歩により、がん医療は大きく様変わりしています。ゲノム検査により、がんに生じている遺伝子異常について網羅的に調べることにより、これまでの臓器別の治療の選択ではなく、遺伝子異常に基づいた薬剤の選択が可能になっています。免疫療法についても、抗がん剤や免疫療法相互の組み合わせなどによる、さらに進んだ段階の治療が開発されています。この2つの視点から新時代のがん医療について、考えてみたいと思います。
演題と講師	「ロボットで切り開く最新のがん外科治療」 40分 泌尿器科学講座 准教授 三井 貴彦
講演内容	がんにおける最も有効な治療は、がんを確実に取り除くことにあります。従来は、身体を大きく切り開くことによってがんを取り除いていましたが、近年のテクノロジーの進歩により、身体に小さな穴を数か所開けるだけで手術を行う内視鏡手術が発展してきました。その最たるものがロボット支援手術になります。本講演では、現在行われているロボット支援手術の導入によって切り開かれた「最新のがん外科治療」を紹介いたします。
演題と講師	「がんと共によりよく生きる」 20分 健康・生活支援看護学講座 教授 谷口 珠実
講演内容	がんになって治療を受けたあとも、元気に過ごせる期間を延ばすだけでなく、自分らしく生き生きと暮らすために生活を整え、苦痛なく楽しく生きることが大切です。治療後の再発や転移を防ぐ対策も重要です。また、治療を受ける前の仕事を続けたり、趣味や旅行を楽しんだり、今までの生活を取り戻すことを社会復帰と言います。早期社会復帰には、経済的な効果だけでなく、生きる希望や喜びを感じるなど、多くの利点があります。本講演では、がんになっても安心して暮らすために、がんと付き合ひ方、情報活用方法や社会資源の活用などについてご紹介します。
質疑応答	司会者及び各講師
司会	健康・生活支援看護学講座 教授 谷口 珠実
コーディネーター	社会医学講座 教授 山 縣 然太郎 健康・生活支援看護学講座 教授 谷口 珠実